

2024 年度 事業報告書（決算について）

1. 決算概要

2024 年度（令和 6 年度）の決算状況をご報告いたします。本年度は、学生生徒納付金の減少傾向が継続したことに加え、人件費支出の削減努力にもかかわらず、事業活動収支計算書において 12,117,621 円の収支差額（赤字）となった。

（1）学生生徒納付金の推移

近年続く入学生減少の影響を受け、学生生徒納付金は以下の通り減少傾向にある。令和 6 年度 129,490,000 円、令和 5 年度 154,695,500 円、令和 4 年度 172,275,445 円この学生生徒納付金の減少が、本年度の収支悪化の主要因となっている。

（2）人件費支出の状況

人件費においては、以下の通り削減努力を継続。令和 6 年度 77,826,217 円、令和 5 年度 82,411,599 円、令和 4 年度 83,051,772 円これは、人件費を含む固定費の圧縮に努めた結果であり、経営努力の一環として評価できるものの、学生生徒納付金の減少幅を補填するには至らなかった。

（3）事業活動収支差額

上記の状況により、2024 年度（令和 6 年度）の事業活動収支計算書における収支差額は、△12,117,621 円とった。

2. 課題と今後の対応

本年度の決算状況は、本法人の財務基盤にとって喫緊の課題を提起している。特に、少子化や高まる求人倍率による学生募集の厳しさ、そしてそれに伴う学生生徒納付金の継続的な減少が、最大の経営課題であると認識しており、今後、本法人は以下の施策を強力に推進し、財務状況の改善と持続可能な学校運営体制の確立に全力を尽くす必要がある。

学生募集戦略の抜本的強化 各学科の魅力向上、多様な入試制度の検討、広報活動の多角化を通じて、入学者数の回復を図る。

経費のさらなる見直しと効率化 人件費以外の一般管理費や教育研究経費についても、業務効率化や無駄の排除を徹底し、支出の抑制に努めていく。

新たな収入源の模索 施設有効活用、社会人向け講座の拡充、産学連携の強化など、学生生徒納付金に依存しない収入源の確保を検討する。

2024 年度 事業報告書（法人部門）

スクールバスの更新について

1. 事業概要

本法人では、生徒の通学支援および校外研修等の実施にあたり、スクールバスを運行しているが、従来の大型バス（定員 45 名）から、新型の中型バス（定員 26 名）への更新を実施した。

2. 更新の理由

旧大型バスの運用において、以下の複数の課題が顕在化していた。

頻繁に発生するメンテナンス費用 運行年数が経過した旧大型バスは、故障が頻繁に発生し、高額な修理およびメンテナンス費用が継続的に発生していた。

燃費効率の悪さ 車両の大型化に伴い、燃費性能が低く、燃料費が高騰する中で運行コストの増大に繋がっていた。

運用上の制約 車体が大型であるため、校外研修や実習時において、駐車スペースの確保が困難な施設

や、道幅が狭い場所への進入が難しいといった運用上の制約が多く、バスの用途が限定される課題がございました。

これらの課題は、生徒の安全かつ効率的な移動手段の確保、および法人運営におけるコスト最適化の観点から、早期の改善が求められていた。

3. 更新運用による効果

中型バスへの更新運用により、以下の効果が見込まれる。

メンテナンスコストの削減 新車導入により、当面の間は故障リスクが低減し、修理費およびメンテナンス費用が大幅に削減される見込みである。

燃費の改善 中型バスへの切り替えにより、燃費効率が向上し、燃料費の削減が期待できる。

運用性の向上 車体のコンパクト化により、駐車場や道幅の制約が緩和され、校外研修や実習、その他イベントにおけるバスの利用用途が拡大し、より柔軟な運行が可能となる。これにより、生徒の学びの機会のさらなる充実にも繋がると考えられる。

2024 年度 事業報告書（学生募集部門）

学生募集活動について

1. オープンキャンパスの実施状況と新たな取り組み

2024 年度のオープンキャンパスは、参加者の皆様により質の高い体験を提供するため、新たな施策を導入しすすめてきた。

拘束時間の短縮化 参加者の皆様の負担軽減と、より効率的な情報提供を目的として、オープンキャンパス全体の拘束時間を短縮。これにより、遠方からの参加者や、限られた時間の中で参加を希望される方々への配慮を強化した。

体験内容の充実化 従来の全回実施していたランチ提供を隔回とすることで、その分のリソースを体験授業や個別相談の時間に充当。これにより、参加者が本校の教育内容や雰囲気をもより深く理解できるよう、体験プログラムの質的向上を図った。

これらの取り組みにより、参加者からは時間の有効活用や体験内容の満足度向上に関する肯定的なご意見をいただくことができた。

2. 入学者数の状況

2024 年度の入学者数については、以下の状況となった。

全体的な傾向 昨今の高校生における稀にみる高い求人倍率が影響し、特に専門学校への進学を検討する高校生の数が減少傾向にあったと推察する。

学科別状況 栄養専門学校 高校生からの入学者数が減少、製菓衛生師科 高校生からの入学者数が減少、調理師科 高校生からの入学者数は横ばいを維持。社会人入学者 栄養専門学校において、社会人入学者数は顕著に減少傾向が続いている。これは、社会全体の労働市場の活況や、キャリアチェンジを検討する層の動向が影響しているものと推察される。

3. 今後の課題と対策

2024 年度の学生募集活動を通じて、特に高校生および社会人入学者の減少という課題が明確となった。

今後は、これらの状況を踏まえ、以下の対策を検討していく予定である。

高校生向け広報戦略の見直し 高校生の進路選択における専門学校の魅力を再定義し、体験型イベントのさらなる工夫や、高校との連携強化を図る。

社会人向け募集戦略の強化 栄養専門学校における社会人入学者の減少に対し、社会人の学び直しニーズ

やキャリアアップへの関心を捉えた、新たな広報媒体や情報提供方法を検討。

各学科の魅力向上 各学科の専門性や卒業後のキャリアパスをより具体的に提示し、本校で学ぶことの価値を明確に伝えていくことで、志願者の増加に繋げる。

2024 年度 事業報告書（イベント開催・参加部門）

1. 学園祭の開催と成果

2024 年度の学園祭は、本校の教育成果を広く社会に発信する機会として、以下の取り組みを実施。

（1）イベント内容と運営

レストラン運営 学生たちが企画から調理、サービスまでを手がける本格的なレストランを運営。

売店運営 専門分野の知識や技術を活かしたオリジナル商品の開発・販売を行う売店を出店。

安全管理 駐車場運営を含む来場者の動線管理、安全確保、および事故防止には細心の注意を払い、運営期間中、特筆すべき事故やトラブルは発生しなかった。

（2）参加者の拡大と反響

今年度より、従来の保護者の方々に加えて、一般の皆様にもご参加いただけるよう門戸を広げた。この新たな試みは非常に好評を博し、結果として、レストランおよび売店の両部門において全商品が完売となるなど、例年になく盛況のうちに閉幕した。

2. イベント参加活動について

2024 年度は、地域社会との連携強化や、教育内容の理解促進を目的として、様々なイベントに参加いたしました。

（1）高校ガイダンス、外部イベント（宇都宮城址公園 とちぎの食肉まつり 2024）への出展

地域で開催された食関連イベントや、進学相談会などへ積極的に出展した。

本校講師が実演を披露したり、本校の特色あるカリキュラムを紹介したりすることで、本校の認知度向上と興味喚起に繋がった。

（2）連携イベントへの協力

近隣の高等学校や地域団体が主催するイベントに対し、専門技術指導やボランティア派遣などで協力。これらの活動を通じて、地域社会への貢献を果たすとともに、学生の実践力向上にも繋げることができた。

3. 今後の展望

本校のイベント開催および参加活動は、学校の教育成果を広く伝えるだけでなく、地域社会との結びつきを強め、将来の学生募集にも繋がる重要な機会であると認識している。今後も、安全管理を徹底しつつ、より多くの来場者や参加者に満足いただけるような魅力的な企画を立案し、積極的に実施するよう努力していく必要がある。